

1. 件名：東京電力福島第一原子力発電所敷地南側の地形に関する面談
2. 日時：令和4年11月21日（月）10時00分～12時00分
3. 場所：原子力規制庁 18階会議室
4. 出席者

原子力規制庁

技術基盤グループ 地震・津波研究部門

林技術研究調査官

原子力規制部

東京電力福島第一原子力発電所事故対策室

竹内室長、正岡企画調査官

地震・津波審査部門

野田企画調査官、海田主任安全審査官

東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー

福島第一原子力発電所 担当3名

原子力設備管理部 担当1名

プロジェクトマネジメント室 担当2名

廃炉安全・品質室 担当1名（テレビ会議システムによる出席）

5. 要旨

- 東京電力ホールディングス株式会社（以下「東京電力」という。）から、本年9月20日の「東京電力福島第一原子力発電所敷地南側の地形に関する面談」を踏まえ、資料に基づき、以下の説明があった。
 - 福島第一原子力発電所における地すべりの可能性の検討状況
 - 福島第一原子力発電所敷地周辺の地形の空中写真等による地形判読結果
- 原子力規制庁は、東京電力の説明内容に関して事実関係を確認するとともに、以下のとおりコメントした。また、本件について、今後、特定原子力施設の実施計画の審査等に係る技術会合で扱う旨を伝えた。
 - <福島第一原子力発電所における地すべりの可能性の検討状況>
 - 今後実施する地震応答解析（1次元）の評価項目を提示するとともに、基礎地盤安定解析（2次元）との関係性を整理すること。
 - 地震応答解析（1次元）によって風化部の影響がある場合に実施するとしている基礎地盤安定解析（2次元）について、「個別施設の基礎地盤の安定性の問題として扱い」としている意味合いを分かるように示すこと。
 - <福島第一原子力発電所敷地周辺の地形の空中写真等による地形判読結果>
 - 地形判読の結果から最終的な東京電力の見解に導く過程について、分かりやすく記載すること。
- 東京電力から、上記コメント等について了解した旨の回答があった。

6. その他

資料：

- 福島第一原子力発電所における地すべりの可能性の検討状況について（案）
- 福島第一原子力発電所における地すべりの可能性の検討状況について（ボーリング柱状図・コア写真）（案）

- 福島第一原子力発電所敷地南方の地すべり地形について（案）
- 福島第一原子力発電所敷地南方の地すべり地形について（ボーリング柱状図・コア写真）（案）

以上